

私の太平洋戦争.....	5	私の体験談.....	17
私の戦争体験.....	10	引き揚げの記憶.....	19
私の戦争体験談.....	12	忘れられない戦時中の思い出.....	21
学校生活前後.....	14	お聞かせください!あなたの〈声〉.....	23
私の思い出.....	15		

私の戦争体験

2017 親子で学ぶ平和学習資料

おじいさんやおばあさんが
体験した大切な大切な
お話の数々。

第39集



5 あなたの住まいの地域で「戦争体験を語り継ぐ会」が開催されれば、参加したい
と思いますか? (イ) はい (ロ) いいえ

6 戦争体験者は、高齢となり自分で書かれるのは、困難な方も多いと聞きます。
あなたは、そのみなさまの戦争体験を聞いて、原稿を書くボランティアがあれば
参加したいと思いますか? (イ) はい (ロ) いいえ

7 あなたのほかに「私の戦争体験」を読まれた方はおられますか?

(イ) いる (ロ) いない

- (イ) いる とお答えいただいた方にお聞きします。それはどなたですか?
(イ) 配偶者 (ロ) 子ども (ハ) 孫 (ニ) 友人 (ホ) その他
- 読まれた方の感想があればお聞かせください。

8 「私の戦争体験」〈第39集〉をお読みになってのご感想をお聞かせください。

9 最近、平和について考えたことを教えてください。

● これをよんでくれた子どもたちにお聞きします。

10 お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんから
戦争体験を聞いたことがありますか。 (イ) ある (ロ) ない

11 「ある」とお答えの方にお聞きします。聞いた体験談を
ご家族やお友だちに話したことがありますか。 (イ) ある (ロ) ない

ご協力ありがとうございました。

私の太平洋戦争

高石市 北村 紗代子 88歳

昭和16年12月8日、私が明石女学校1年生で12歳の時、太平洋戦争は始まった。戦争が始まったといっても、日常の生活にあまり支障はなく、真珠湾攻撃などで戦争は勝つものだと思込んでいた。学校生活に変化がおきたのは、2年生になってからだった。1年生は何とか勉強もできて英語の授業も受けられたが、2年生からは敵国語として科目から抹殺された。英語が好きだった私は、残念だったが仕方がないと諦めた。今でも横文字は苦手で、女学校を卒業した亡き母の方が英語の綴りが読めて娘との間に挟まって私も惨めな思いをした。2年生から少しずつ勉強の時間も少なくなり、毎日大久保の川西軍需工場へ行き、真空管の部品のいろいろな仕事をした。それでも、まだ2年生は何とか半分は学校で勉強もできたが、3年生になって昭和18年になると、全く勉強はできなくて工場通いの毎日が続いた。

だんだんアメリカの飛行機(B-29)が飛んでくるようになり、防空壕の中へ入る事が多くなった。それでも、まだ若かった私はのんきなもので、工場の防空壕の穴の中から銀色のB-29の編隊が青空を飛ぶのを「わあ、きれい」などと眺めたものだった。しかし、その帰りに見たものは悲惨なもので、帰り道の川崎という軍需工場で爆弾が落とされ、多くの死傷者が

主な出来事 年表

1941年(昭和16年)12月8日
太平洋戦争開戦(真珠湾奇襲攻撃)

12月
日本軍 香港 占領

1942年(昭和17年)2月
日本軍 シンガポール 占領

6月
ミッドウェー海戦 日本敗北

1943年(昭和18年)2月
ガダルカナル島 日本軍撤退

5月
アッツ島 日本軍玉砕

10月
学徒出陣始まる

9月
イタリア降伏

1944年(昭和19年)1月
東京・名古屋で初の強制疎開始まる

8月
国民学校 集団疎開始まる

国民学校 竹槍訓練始まる

10月
神風特攻隊初出撃

11月
東京にB-29初空襲

1945年(昭和20年)3月
東京大空襲・大阪大空襲・名古屋大空襲

4月
米軍 沖縄本島上陸

8月6日
広島 原爆投下

8月9日
長崎 原爆投下

8月15日
玉音放送
日本 無条件降伏

5月
ドイツ降伏

8月
日本降伏

連合国軍攻勢強まる

日本軍各地で撤退・玉砕

もくじ

P5 北村 紗代子さんの体験記

P10 福井 幸子さんの体験記

P12 匿名Hさんの体験記

P14 匿名Kさんの体験記

P15 酒井 弥栄さんの体験記

P17 石橋 美津子さんの体験記

P19 山蔦 康代さんの体験記

P21 宮本 吉野さんの体験記



戦前の女子教育機関の名称。
女学校

真珠湾攻撃
1941年(昭和16)12月8日、日本海軍の機動部隊がハワイ真珠湾に集結していたアメリカ太平洋艦隊を奇襲攻撃した事件。これによって太平洋戦争が始まった。

軍需工場
武器・弾薬をはじめとする軍需品を開発・製造・修理・貯蔵するための施設。

B-29
アメリカのボーイング社が第二次世界大戦中の1942年(昭和17)に完成した長距離用爆撃機。日本本土の軍事施設を破壊することにも、都市に対する無差別爆撃を行い、戦局に大きな影響を与えた。広島と長崎に原子爆弾を投下したのも同機である。

防空壕
空からくる敵の攻撃に対し避難するために掘りつくろった穴やみぞ。



でていた。

しばらくして、西明石にすんでいた私の家の近くに1トン爆弾が落とされた。雷を何百も合わせたような音に、私たちは震えあがり、伯父を頼って疎開をした。姫路と明石の間の本荘という海辺の農村だった。私は明石の学校へ行ったり、工場へ行ったりだったので、朝は山陽電車で明石に行き、国鉄(JR)で大久保駅まで通っていた。

ある朝、ちょうど明石駅まで行くと警戒警報がでた。電車も自動車も動かなくなったので、私は明石の公園でしばらくいることにしたが、空襲警報になり、ここでじっとしていてもどうにもならないと思い、家に向かって歩いた。歩いて帰れる距離ではなかったが、なぜかひたすら歩き続けた。明石、西明石と3駅か4駅(田舎の駅は駅の間がかなり遠かった)。やっとその次の駅に着いた時、突然大きな音がして爆弾が落ちたようだった。後でわかったのだが、私のいた明石公園の場所に爆弾が落とされたもので、もしあの時そのままその場所に行ったら、私はとくに爆弾に飛ばされて、ばらばらになっていただろうと思う。それでも私たちは、学校と工場にせせと通った。ほとんど学校には行かず、工場ばかりだったが…。

戦争がだんだん激しくなると敗色が濃くなり、私は毎日機銃掃射に悩まされた。神経質な私は、空襲警報が鳴ると、一番に防空壕に飛び込んだ。その頃の田舎は、ほとんど機銃掃射だったので、防空壕に入っていれば、何とか助かるということだった。飛行機から直接狙い撃ちをされるので、低空を飛んでばらばらと弾が飛んできた。ただ当たるのは飛行機の飛

ぶまっすぐな方向だけだったので、少しルートからそれると助かるのだった。ときどき電車が襲われて、翌日行ってみると、駅は弾と血の跡でいっぱいだった。機銃掃射の音の怖さは一生忘れないだろう。しかし、田舎の事なので焼夷弾は落ちてこなかった。

昭和20年3月14日、大阪が空襲で焼けた時、私は対岸から火の手を見ていた。大阪・堺・和歌山の3か所のように見えた。自分の身近ではなかったが、恐いより真つ暗な空に火花が上がったようで「きれいだなあ」ということしか頭になかった。前日から、大阪の岸和田の親類宅に母が行き、私も後から行く約束をしていたので、翌日一人で大阪へ出かけた。なんとか難波から玉出あたりまで電車が動いていたように思う。しかし、そこから先はどこから電車が動いているのかわからなかった。とぼとぼと歩いていた私は、事情を聞いてくれた親切な男の人が乗っていた自転車の後ろに乗せてもらい、どこまでだったか忘れたが電車の動く所まで連れて行ってくれた。何とか岸和田まで苦労してたどり着いたら、母は私が来たらいけなさと心配して、船で本荘まで帰ったので、行き違いになってしまった。後で叱られたが…。

昭和20年の二部卒業というところで、5年のところを4年で卒業になり、そのまま専攻科に残り工場に通って在学した。

昭和20年6月9日、もうあと2か月余りで終戦という時、また明石のお城あたりに爆弾が落ちて、友達がばらばらになって死んだ。その友達は、明石の駅まで来て空襲警報になり、汽車が動かなかったので自分の家に帰り、二、三歳年下の妹と二人爆弾で飛ばされて

疎開
空襲・火災など、戦争の損害を少なくするため、都市に集中している住民や建物を地方に分散すること。

警戒警報
敵機の空襲のおそれがある場合に
出された警報。

空襲警報
敵軍の航空機による爆撃被害が出
ないように、市民に知らせる警報。

機銃掃射
機関銃の銃口を動かし、敵をなぎ
払うように射撃すること。

焼夷弾
敵の建造物や陣地を焼くことを目
的とした砲弾や爆弾。木造の日本
家屋を効率よく焼き払うために使
用された。

大阪空襲
1945年(昭和20)3月から8
月にかけて8回行なわれたアメリカ
力軍による大阪市を中心とする
無差別爆撃のこと。これらの空襲
で一般市民二万人以上が死亡した
と言われている。

死亡した。

これは余談ですが終戦後、神戸に外人が大勢上陸し、友達が犯され（この間の事情は、はつきりしないが）妊娠をして自殺した。同情した親友が、一緒に自殺した事も私たちにとつては大きなショックだった。当時、同窓会誌には2人とも、昭和21年10月23日死亡と書かれていた。

私はそれからも爆弾が落ち、機銃掃射の絶え間ない所を工場へ行きながら、無事に過ぎした。毎日片道1里（4km）くらいの道を往復して、学校や工場に通った。なかなか来ない車を待ち、窓から引張ってもらったり、押ししてもらったりして乗った事を今思うと懐かしい。終戦になった時、家のラジオが聞こえにくく、近所へ聞きに行ったが、やっぱりはつきりとはわからなかった。また頑張つて戦いましょうと言っているのだと、聞いた人は皆そう思っていたが、2時間ぐらい経つて、戦争が負けて終わったと聞いた。負けたことは残念だったが、正直いって、どれだけ嬉しかったか忘れられない。

今、こうして書いてみると、私の経験はたいしたことではなかったのかな、などと思われるが、まだまだ書きたりない事もあるように思う。また、この私の何倍も何倍も悲惨な経験をした人が多勢おられると思う。こんな経験ですら、20年〜30年も戦争の話もテレビも映画も全部見るのは嫌なくらい、傷は深かった。

幼稚園という職場で長年勤め、園長になってから、戦争を知らない子どもよりも、戦争を知らない大人の多いことに気づき、やっと戦争の話や経験を話してわかってもらわないと、と努力し私の一番大事な子どもたちのために伝えていかなければと思つた。

亡くなった主人も、満州からシベリアに抑留されて、昭和23年頃日本に帰ってきたよう

で、その悲惨な事はよく話してくれた。
しかし、70年を超える月日は長く、戦争も心の中で褪せていくような気がする。だからこそ今、新たに思い起こさなければいけないのだろう。私が最初に教えた子どもが、70歳を過ぎていられると思う。私の話した事を覚えてくれないと思うが、気持ちだけは伝わってほしいと願っている。

どこの国の戦争も絶対によくない。「どうしてもするのなら、私が死んでからにしてほしい」と勝手なことを思っているはいけないかな…。



満州国

1931年（昭和6）の満州事変を機に、中国東北部（満州）を占領した日本の関東軍が32年に作った傀儡国家。名目上は独立しているが、実態は支配されている国家のこと。

抑留

比較的短期間、強制的に身体の自由を拘束（こうそく）すること。

私の戦争体験

堺市 福井 幸子 91歳

今里にある女学校で、日本が戦争に勝つための教育を受け、川西市にある軍需工場に行かされていた。朝早く夕方おそくまで、頑張り、ふらふらになった。その時、アメリカの飛行機が墜落してきた。その飛行機には数名の兵隊が乗っており、その中には女性の兵隊もいた。私はアメリカの女性のきれいな肌や髪の毛にびっくりしてしまった。その時見た飛行機の燃料タンクが、日本のものとはまったく違っていたのでびっくりし、言葉が出なかった。私たちが工場で作られていた燃料タンクは、木製で板を樽のように重ねて、それに落下傘に使う生地を貼り合わせたものなのに、そこで見たのはゴム製の立派なタンクだった。それを比べただけで、日本が戦争に勝てるとは思えなくなり、急に気力が抜けた。

飛行機が飛んでいるので、日本の飛行機だと、皆信じていた。ところがそれはアメリカの飛行機だった。私は、奉仕と空腹のために勉強もできないで頑張ってきたが、この状況を知って、精神的にも、急に疲れが出てきた。

その頃、住んでいた今里には色町があつて、芸者の子はさげすんだ目で見られていた。私の友人にもそんな子がいたが、私は友だちとして、つきあうことができた。ある日、その色町で空襲があつた。そこで避難した防空壕は、八畳の間に敷き詰められたお座敷だった。空襲さない。

終戦後の生活は大変でした。食糧を手に入れることもむずかしく、友人が物々交換をしようと言ってくれた。生活は大変でした。私の子ども時代のひな人形と米の交換になり、その時は悲しかった。でも生きる事のために必死ですごした。現代の子どもは苦しみも知らず、私たちの時代と違うのでびっくりする。学校では言葉遣いが、先生か生徒かわからない。私の時代とまったく違うので、学校に聞きに行った。先生も『言葉の使い方大変こまっている』と嘆いておられた。私たちは勉強するために苦労したが、現代の子どもたちは学校からゲームをしながら帰っている。言葉の使い方様変わりした。私たちの時代は、先生が尊敬の精神を教えてくださいました。勉強はしたくてもできない時代だった。いまの子どもたちも少し変わってほしいと思うことがある。しかし、私もいつのまにか…もう91歳となりました。それでも、今は勉強の時代です。

古い身に いろいろ習う 日々楽しい

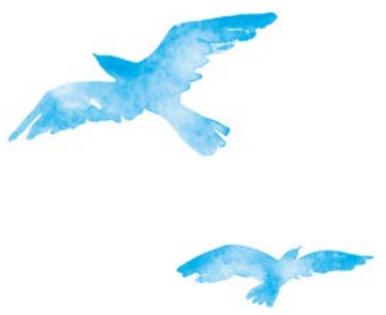
私の戦争体験談

八尾市 匿名H 80歳

私は昭和18年4月、大阪市東成区片江国民学校に入学しました。200人くらいで5クラスでした。登校する時は防空頭巾(綿の入った長方形、2つ折にした帽子)とランドセル(今の革製品でなくダンボール、雨に濡れると型くずれ)を、大事に使っていました。胸には白い布で住所、氏名、血液型、生年月日を墨で書いたのを縫いつけてありました。今の名札です。焼夷弾でいつ死ぬかわからないので、市民は強制的につけて外出していました。登校すると給食のパンがすぐに配布され、個々に給食用の袋に入れて持っていました。授業中に空襲警報が発令されると先生の引率で集団下校しました。その日は授業打ちりで、翌日登校したら昨日の続きです。黒板の字も昨日のままです。授業は毎日2〜3時間で終わります。戦争がはげしくなり、3年生以上は縁故疎開、集団疎開(親から離れ先生たちと奈良県桜井市のお寺に寄宿、淋しかったそうです)。学校には私たち2年生以下しかおりません。校舎も運動場もガラガラで、思う存分遊びまわりました。でも低学年だけなので淋しかったです。戦争中なので、学校の行事は全部ありません。最後の遠足で天王寺動物園へ行きました。服装は全員モンペ姿です。おとなしい動物(鳥や豚、猿達、水族館の魚)は生かされている。猛獣舎の動物は、空襲で檻から飛び出すと人に危害を与える危険があるために「えさに薬を入れて死なす」との事でした。それを聞いてかわいそうで私はライオン、トラの表情を見て泣きました。今でもその情景を思い、動物たちがかわいそうで、たまりません。した。人間の戦争に動物が犠牲になるのが…。

昭和20年8月15日終戦。秋頃に疎開していた3年生以上が、次々帰って来て賑やかになりました。「象列車がやって来た」のお話を聞いてやっと安心しました。小学生の時代に、このような体験をしたので、今はなんと平和な時代だと感謝しています。私たちだけで終わりにしたい。

追伸
戦後は食料難のため、配給制で、私たちも「ひもじい」生活をしていました。白御飯を夢で見ました。



こくみんがっこう
国民学校
1941年(昭和16)から47年までの日本の初等普通教育機関の名称。「国民学校令」に基づき、従来の小学校を改称し、戦時体制に即応した国家主義的な教育を行なった。初等科6年、高等科2年を義務教育年限とした。

防空頭巾

戦時中、空襲などの際に飛来物から頭を守るためにかぶった綿入の頭巾。

縁故疎開

親戚や知人を頼つてする疎開。

集団疎開

戦局の悪化に伴い、戦禍を避けるために大都市の人たちを地方都市や農村に集団的に移住させたこと。学童疎開もその一種。

モンペ

農山村の労働着。第二次世界大戦中は女子の非常時服として採用され、全国的に普及した。



象列車

太平洋戦争中に日本各地の動物園の動物たちが処分されたため、名古屋市営東山動物園に唯一残されていた象を見たいと願う子どもたちのために、敗戦後のアメリカ力による占領下の1949年(昭和24)に、各地と名古屋の間を走った特別列車のこと。

配給

統制経済の下で、不足しがちな物資の流通を統制し、特定の機関を通じて一定量ずつ売ること。第二次大戦の戦中・戦後に行われた。

学校生活前後

松原市 匿名K 90歳

機銃掃射がこんなに恐いという、桜が咲いていたか散ったかの気候。終戦前年に、女学校卒業後、旋盤工として講習をうけ、小さなハンドルをまわして工場に勤務する私に、両親はすごく反対しました。戦争の終わりに近かったからです。女子として講習希望した卒業生の中で、私一人でした。大人の中に入って、勝ちますの一言で頑張りました。勤務先の13号線歩道で、小さな灌木にかくれようもなく、地面にはいつくばって掃射をからくものがれ、焼夷弾なら多分今までの生がなかったと思います。編隊で急降下してくる音に、生きたいと心に思いました。兄がポツダム宣言をうけた後に、内地で特攻生の幹部候補生として苦しい訓練をうけ、兄自身ポツダム少尉と自嘲していましたが、100メートル先の道路を軍服、リュック軍靴の姿が、町内の方が知らせてくださって、どんなに喜んだ事でしたか、一ランク星の位が上がったから、兄が自嘲したのです。軍のリュックも在学中勤務奉仕で、ミシンで二日ばかりで足ぶみでした。千人針を千人の方に結んでいただいて、街角に立ち、お願いしますと、たのんでありがたい協力でした。無駄とは、一向に思いませんでした。

御陵さんが学校より離れていませんでしたから、清掃にはたびたび行きましたのも、堺市内の学友が空襲でたくさん亡くなって、勤労奉仕は中断、校舎も焼失、旋盤工としての工場も焼けてしまいました。

バラバラになった友人と再会できたのも、ずいぶん年数がかかりました。思い出の校舎跡は高層の住宅にさまがわりし、校名もかわり合併しています。先生方は、19歳で卒業した私に、まもなく「卒寿」になりますから存在されていません。クラブ活動をしていたのが、ただひとつの救いです。声をかけていただくのが嬉しい年代です。火の中をくぐった事も夢のようです。

終戦前に軍のオペレータのような募集もあり、うけられなかったのが、戦争時の一番のなつかしさとかやしさを覚えます。この記憶は忘れません。戦争は、人心を迷わします。

私の思い出

堺市 酒井弥栄 97歳

思い出せば、ずいぶん昔の事のように思いますが、戦時下の事を思い出すままに書いてみます。

私は昭和19年、23歳で結婚しました。夫は海軍だったので、軍港のある広島県呉市に住みました。疎開先をさがすため、呉市より田舎の大竹町へ家さがしにかけた夜、呉市は焼

旋盤工
機械を操作して、金属の加工を行
い部品などを製造する者のこと。

内地
一国の領土内の土地。国内。ここで
は、日本国内という意味。

特攻

特別に編制して攻撃すること。特
に、第二次大戦末期に行われた、旧
日本陸海軍による体当たり自爆攻
撃のこと。

ポツダム少尉

終戦になってから現役将校以外の
者を二階級昇進させるポツダム昇
進で、少尉になった者。

勤労奉仕

公共の目的のために、無償で労力
を提供すること。
特に、第二次大戦中に学生などに
課された無償の労働。

御陵

天皇・皇后・皇太后・太皇太后の墓。
みでせで。

軍港

軍用の港。海軍が根拠地として使
用する、特別の施設のある港。旧海
軍では、横須賀・呉・佐世保・舞鶴の
四か所で、鎮守府が置かれた。

夷弾の雨がふり、丸焼けになりました。命拾いました。命拾いましたが、帰ってきたら、近所の人も家も焼けて、お皿一枚残っておりませんでした。歩いて呉市から大竹町へ避難し、農家のはなれをかしていただき住みました。

昭和20年4月に長女を出産しました。産婆さんが夜に産むとなると灯りがもれるといけなかったので、押入で産むことになると言われ不安でしたが、昼に産気づき夕方に産むことができました。夜は電灯に黒い布をかけて、暗い部屋にして、かすかな光の下で長女を育てていました。着るものはあり合わせの上衣に下はモンペをはき、夜もはいたまままで、発令がある

と防空壕のある所まで走って走って行きました。毎日がこわい思いで暮らして行きました。夏は暑い日がつづき、お風呂に入れず、大きい木のタライにお湯をいれて長女に行水をさせました。アセモができないよう気をつけました。

食べ物もなく、配給をもらうのに、赤子の長女を抱き3時間ほど待ちました。もらったサツマ芋、カボチャなど少しの物を大切に大切に食べる暮らしたので、お乳の出が悪いお母さんが多く、たくさんのお赤ちゃんが弱っていき、死んでかわいそうでした。私は幸せなことに、お乳がでたので、長女はすくすく育ちました。

8月15日、終戦となり電灯にかけていた黒い布を取りはずした時の明るさは、たとえようもない喜びでした。近所の方々と着るものがなくとも、食べるものがなくともよいから、こわい目にあうことなく静かな暮らしができたならこのうえない、ありがたい日々であると話

あいました。

いろいろの事がありました。月日は流れて72年がすぎ、現在に至りました。体はだんだん弱りつつありますが、なんとか健康に気をつけて日々をすごしています。ありがたい事と思います。



私の体験談

東大阪市 石橋美津子 83歳

今年はそのいまわしい戦争が終わって72年を過ぎ、また終戦の日が近づきます。

大阪市内に生まれ大阪市内に育ちましたが、幸せなことに大阪のあの大空襲は経験しませんでした。

あの第二次大戦の時、当時私は4年生、親もとを離れ広島県福山市田尻町の天徳寺へ学童集団疎開をしました。見知らぬ土地での不自由な生活は大変なものでした。

お寺では、大阪からのつきそいの女先生二人、当地の寮母先生、お炊事担当のおばさまふたり、後は何事も私たちが自分ですべてやりました。朝は太鼓の音(お寺の本堂にずいぶん

産婆 産婆のこと。出産を援助し、妊娠時から新生児の看護まで関与する者。

行水 げんじょうずい たらいに湯や日なた水を入れて汗を流すこと。

寮母先生 りょうぼせんせい 寄宿舎や寮で、寄宿者たちの世話をする女性。

立派な太鼓が今もあります)で起床・食事・村の学校へ。学校では同じ村の離れたお寺に
 同学年の男子児童が来ていましたので、同じ級で机を並べて勉強しました。

お寺は山の中腹にあり、井戸は深く炊事しか使えませんので、朝の洗面から洗濯までお
 寺の下に流れている小川でして、入浴は数人ずつ何日かごとに村の家々にもらい風呂に行
 きました。今も忘れられないのが、その時村の家で出してもらったおやつ、ふかし芋とか、焙
 り豆、何とおいしかったでしょう。お風呂に入れてもらえるうれしさよりも、何かおやつをいた
 だけの事の方がうれしい時代でした。当時のお風呂は皆五右衛門風呂、浮いた板を上手に
 底に沈めて入らなければなりません。他の地域に疎開された方のお話をお聞きしていると、
 私たちの村は本当に恵まれた疎開生活だったと思います。

私は今まで疎開地を十数回訪れています。家族づれだったり、お友達を誘って当地で同
 窓会をしたり、村の方々のご不幸の際の弔問だったり、故郷のような気持ちで訪れてい
 ます。もう以前お世話になった時の方は亡くなっていますが、代替わりの方が、昔と同じ
 ような気持ちで、私たちを迎えて下さいますのは本当にうれしいことです。

引き揚げの記憶

八尾市 山蔦 康代 81歳



昭和20年8月15日の敗戦を、私は朝鮮半島南部慶尚南道の梁山で迎えました。私は
 国民学校4年生、弟は2年生で両親と4人暮らしました。

日本政府の方針では、集団引揚げは北の方から順番に行くという事でした。しかし、な
 ぜか翌月の9月13日の夜半に公用車らしい車がそとときまして、私たち一家を釜山まで運
 んでくれました。釜山港の棧橋は、北からの引揚者であふれていました。引揚船は「興安
 丸」でした。私たち一家は船底の狭い一室に隠れ、じっと身を潜めました。当初、船は下関港
 へ向かうはずでしたが、機雷があるかもしれないからと、山口県の仙崎港へ向かいました。仙
 崎には棧橋がありません。それで、興安丸から岩壁の何本かの杭に向けて大きな網が投げ
 られ、その網につかまって岸壁によじ登りました。近くの仙崎駅で、舞鶴方面から来る汽車
 を待ちましたが、汽車は戦地から復員された兵隊さんたちで、ぎゅうぎゅう詰めで窓にま
 でブラさがっています。一人も乗り込む余地はありません。何台待っても同じです。仕方なく
 私たちは、粉石炭を積んだ無蓋貨車に乗り、粉石炭の上に座りました。貨物列車は、私た
 ち四人を乗せて、山の中を進んで行きました。やがて父が、リュックサックの中から真っ白いタ
 オルを取り出し私たちに一枚ずつ渡しながらか、「もうすぐトンネルに入るから、このタオルで目

五右衛門風呂
 「釜ゆでの刑に処せられたという
 石川五右衛門の名にちなむ」
 かまどを築き、鉄の釜をのせ、木の
 桶をすえた風呂。
 桶の底は浮かせて蓋とし、人が入
 るときには踏み沈めて底とする。

集団引揚げ

敗戦によって、台湾・朝鮮半島・南洋
 諸島などや、多数の入植者を送って
 いた満州(法律上は外国)、また南
 樺太などに移住していた日本人で、
 日本軍の降伏に伴って日本本土に
 引き揚げ、すなわち帰国すること。

引揚船

国から引き揚げて本国に帰る人を
 乗せる船。特に、第二次大戦後、外
 地での生活を引き払って日本に帰
 国する人を乗せた船。

機雷

鋼瓦に多量の爆薬を詰めて水中に
 敷設あるいは浮流させ、艦船の接
 触や接近により爆発させて破壊す
 る兵器。機械水雷の略。

復員

戦時体制の軍隊の召集を解かれ、
 兵役を離れ、戻ってくること。

無蓋貨車

屋根のない貨車。

鼻口をしつかり押さえ、「よし!!」と言うまで絶対に離すな」と言いました。「そら、トンネルだ」で、私たちはタオルを当て顔を伏せました。「ようし」と言うので顔を上げると、次のトンネルの入口です。あわてて顔を伏せました。蒸気機関車の煙突から吐き出す黒い煙を全身に浴び、白いシャツ、白いブラウス姿の私たちは真っ黒です。トンネルを出ると、無蓋貨車から降ろされました。そこから先の線路にはレールがなかったのです。内地の鉄道事情など知るよしもありません。父もまさか、こんな山の中で置き去りにされるとは、想像だにしなかったでしょう。あたりは暮れかかっていた。山口県を南北に貫く線路を、夜通し南へ南へと歩き続け、翌朝やつと線路がたくさんある場所に出ました。無事、客車に乗り、私たちは四国の香川県まで帰りますので、宇高連絡船で四国に渡り、高松に着きました。

高松駅で駅長さんの待ったがかかりました。父は駅長室で長い時間取り調べを受けました。もちろん「引揚証明書」は所持しています。けれど、どんなに説明しても、駅長さんは信じてくれません。しまいに駅長さんが釜山へ電話をされて、やつと本物と証明されました。高松駅では、私たちが引揚第一号だったそうです。父を待つ間、駅の方がおむすびとお茶をご馳走してくださいました。久しぶりのお食事でした。高徳本線に乗り、造田駅から再び夜道を長時間歩いて、井戸村の父方の祖父の家に向き着きました。戦後72年、今だに祖国日本へ帰るに帰れず、朝鮮半島に残留されている日本人の方がおられるそうです。同じ日本人として心が痛みます。

忘れられない戦時中の思い出

富田林市 宮本 吉野 84歳

昭和20年3月、大阪市港区で大空襲にありました。小学校(国民学校)6年生の時、空襲警報が出ると、近くに大きな防空壕があり、近所の人たちと一緒に入り、ドーン、バリバリと爆弾と焼夷弾の音で耳をふさぎたくなるような音に、家族みんなで体を寄せあい空襲が終わるのを待っていました。何時間かたって、おそろおそろ外へ出てみると、一面火の海でびつくり、まだ火の粉が飛び散り、出て行く事ができませんでした。その時、私の家は焼けなかったのですが、6月にまた大阪に空襲があり、その時は全焼しました。私たちは柏原に疎開していましたが、父は役所勤めだったため、大阪市内の公舎に二人住んでいて焼け出されました。急に警報が出たので何も持たず、自転車で米櫃だけ積んで、はだして逃げたそうです。大事な物は庭に、大きなドラム缶に入れ土の中に埋めていたようです。

6年生の時、小学生は大阪市内に住むことはできず3年生から6年生までは四国の琴平に集団疎開に行きました。私たち6年生は3学期に、女学校の受験のため大阪へ帰り、その時空襲にありました。教育勅語など生懸命勉強しましたが、3月の空襲で、小学校なども焼けてしまい、入学試験どころではなかったのです。4月に入り、私は八尾の女学校へ入学しました。校長室で面接試験を受けたのを覚えています。

宇高連絡船
かつて岡山県玉野市の宇野駅と香川県高松市の高松駅との間で運航されていた鉄道連絡船。

高徳本線
香川県高松駅から徳島県徳島駅に至る鉄道路線(幹線)。

公舎
公務員用の住宅。官舎。

教育勅語
明治天皇により、教育に関して国民に与えた天皇の言葉(意思表示)。以後の大日本帝国において、政府の教育方針を示す文書となった。第二次大戦前の日本の教育の根幹となった。

お聞かせください! あなたの〈声〉

「私の戦争体験」〈第39集〉アンケート提出のおねがい

● 配送担当者またはお店にご提出ください ●

お名前	フリガナ	
電話番号	()	
	市町村名	
年齢	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代 その他()	

※お預かりいたしました個人情報、今後の戦争体験を語り継ぐ活動のみに活用させていただきます。

アンケートにおこたえください

1 「私の戦争体験」をお読みいただきましたか。

(イ) 毎年読んでいる (ロ) 今回初めて読んだ (ハ) 読んだことはない

2 今年の「私の戦争体験」は読みやすかったですか。

(イ) 読みやすい (ロ) 読みにくい

理由:

3 あなたの戦争体験はありますか。

(イ) ある (ロ) ない

● (イ) ある とお答えいただいた方にお聞きします。戦争体験を寄稿していただけますか?

(イ) はい (ロ) いいえ (ハ) その他()

4 「私の戦争体験」の発行を今後も続けていきたいと思っています。

体験をお話しいただける方をご紹介します。

戦争体験を書いていた方のお名前・連絡先など

お名前	年齢	連絡先	〒	-
			TEL.	()

あなたとの関係・続柄をお書きください()

裏面につづく

父が妹を疎開先へ迎えに行き、それから柏原の知人宅(天理教の裏の部屋)に間借りを
して、夜は電燈に黒い布をかぶせ、ガラス戸は新聞に黒い墨をぬったものをはるような生活
をしているうちに、8月15日正午に天皇陛下の玉音放送があり、私たち家族はラジオの前
で正座して聞きました。天皇がポツダム宣言を受諾し、降伏するという放送を聞き、終戦
を迎えました。両親は涙ぐんでいましたが、私たち子どもは、今日から電気も明るくつら
れるし、空襲もないのだと、うれしいような複雑な気持ちだったと思います。

終戦になってから、家族で焼けた家の後片付けや残った物(土に埋めていた物)などを取
りに行った時、関西線の湊町の駅に着いて市内を見た時、一面焼野原でびっくりしました。
今でも小学校の同窓会は毎年行きますが、だんだん出席する人も少なくなり、いつも
集団疎開や空襲の話、また配給制度があつて米穀通帳などがあり、並んでお米とか砂糖
を買った話などでもりあがります。

私も生協から30数年前、広島へ平和行進で行きましたが、一昨年主人と久しぶりに広
島へ行って来ました。随分と緑も多くきれいになっていましたが、原爆ドーム、平和公園はそ
のまま、資料館も変わっていましたが、当時の写真とか、遺品など焼けこげた弁当箱、服
などを見ると胸が詰まる思いでした。

このような事は二度とあつてはならない。今の若い人たちにも、悲惨な戦争をさせたくな
いと痛切に思います。

米穀通帳
第二次大戦中の米穀不足から、政府
が米穀統制のため各世帯に配布し
た通帳。1982年(昭和57)廃止。

玉音放送
1945年(昭和20)8月15日正午
から、昭和天皇自らが太平洋戦争
終結の決定を国民に伝えるために
行った録音放送。